

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

国語(現代文)

文科	試験時間	150分	満点(配点)	120点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題			
理科	試験時間	100分	満点(配点)	80点	出題数	現代文 1題、古文 1題、漢文 1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総論〉

問題文の内容はメディアの特性をふまえた表現論と、時間のあり方をテーマとした共同体論で、文理共通第一問・文系専用の第四問ともに、東大入試で頻出する一連の傾向にある出題であった。ただし第一問の文章はグラフィックデザイナーによるものであり、2001年(リービ英雄)以来の実作者によるものであり、論理性のみでなく表現者の感性に根ざした文章である点で理系の受験生にとってはなじみの薄いものであったかもしれない。

いずれにせよ内容に関しては駿台のテキスト、模試問題でも扱われているものであり、こうした文章に親しむ訓練を重ねてきた受験生にとっては難問ではなかったはずである。

自分が今、現に生きている時代・社会を見据えた問題意識を持ちつつ、過去問の内容を深く理解しながら自分の思考を血肉化するという言語理解・認識の作業を着実にやっていることが、合格答案作成のための必須の行為だということが明白である。言語認識・伝達の重要性を意識しながら、文章読解と表現のたゆまざる訓練を持続していきたい。

〈合格への学習対策〉

現代思想の動向にも十分な注意と関心とを持ちつつ、オーソドックスな文章読解の訓練と、理解した内容を的確な文章に表現する訓練を堅実に行うことが、合格答案を書くための唯一の道である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第一問	評論(メディアの特性をふまえた表現論)	原研哉『白』(第四章 白へ「推敲」「白への跳躍」の全文)	表現に関わる議論は東大の過去問でも既出(2007年浅沼圭司『読書について』)	標準
第四問	随筆(時間のありかたをテーマとした共同体)	日本文芸家協会編『ベストエッセイ2008 不機嫌の椅子』(馬場あき子「山羊小母たちの時間」)	同様の時間論は、東大の過去問でも既出(1995年内山節『時間に関する十二章』)	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第一問	(一)	記述	「完成」を目前にした人間心理を考察・理解する。	標準
	(二)	記述	「白の感受性」と完成・洗練との関わりの理解が要求される。	やや難
	(三)	記述	推敲の文化が、「紙」メディアによってどのように形成されてきたかを理解する。	標準
	(四)	記述	「紙」との違いを念頭に置きながら、「ネット」という新たなメディアの特質を理解する。	標準
	(五)	記述	全体の論旨に即して、徒然草の引用を用いた筆者の主張を説明する。	やや難
	(六)	漢字書き取り	一般的書籍で用いられる漢字の意味の理解・書き取りの要求。	易
第四問	(一)	記述	昔の農家の構造と人間生活との対応を理解する。	標準
	(二)	記述	祖霊と共に命をつなぐ生き方をしてきた日本人を理解する。	標準
	(三)	記述	近代的・都市的時間の中に生きる人間についての理解が要求されている。	標準
	(四)	記述	全体の論旨をふまえながら、作者の感慨を説明する。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。